

低コストで質の良い加工・業務用農産物の 安定供給技術の開発

【363（485）百万円】

対策のポイント

食の外部化に対応した国産農産物の需要確保のため、加工適性が高く低コストで適時調達が可能な加工・業務用農産物の生産技術を開発します。

（食の外部化の進展）

共働きや単身世帯の増加、高齢化の進行、生活スタイルの多様化等を背景に、食料消費支出に占める外食・惣菜・調理済食品の割合は4割を超えています。

政策目標

高品質な加工・業務用農産物を低コストで安定的に生産できる技術を開発し、食料自給率向上に貢献

<内容>

1. 輸入品に対して優位性を発揮できる高品質な加工・業務用農産物の開発
豆腐加工適性の高い大豆や、抗酸化活性の高い有色大豆、醸造適性の高い甘しよ、周年供給が可能なチップ用馬鈴しょ等新しい特性を持つ畑作物、加工用途に最適なアミロース含量を有する多収稲、スライスに適したトマト、新たな食味食感を有する野菜の開発、カット野菜・フルーツの加工後の鮮度保持技術等の開発を行います。
2. 超省力・低コスト化技術確立による生産性の飛躍的向上のための技術開発
加工用甘しよ、馬鈴しょの貯蔵技術の開発、機械化一貫体系によるカット用キャベツ生産技術、トマトの多段取技術等の開発を行います。
3. 研究機関、生産者、食品産業の共同（モデルコンソーシアム）による加工・業務用農産物の利用技術の開発
新規育成品種・系統について、生産現場での高品質安定栽培技術、その生産物を利用した加工利用技術を各機関の連携により総合的に開発を行います。

<実施主体等>

実施主体 民間団体等
実施期間 平成18年度～平成22年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発課（03-3501-0966（直））]